

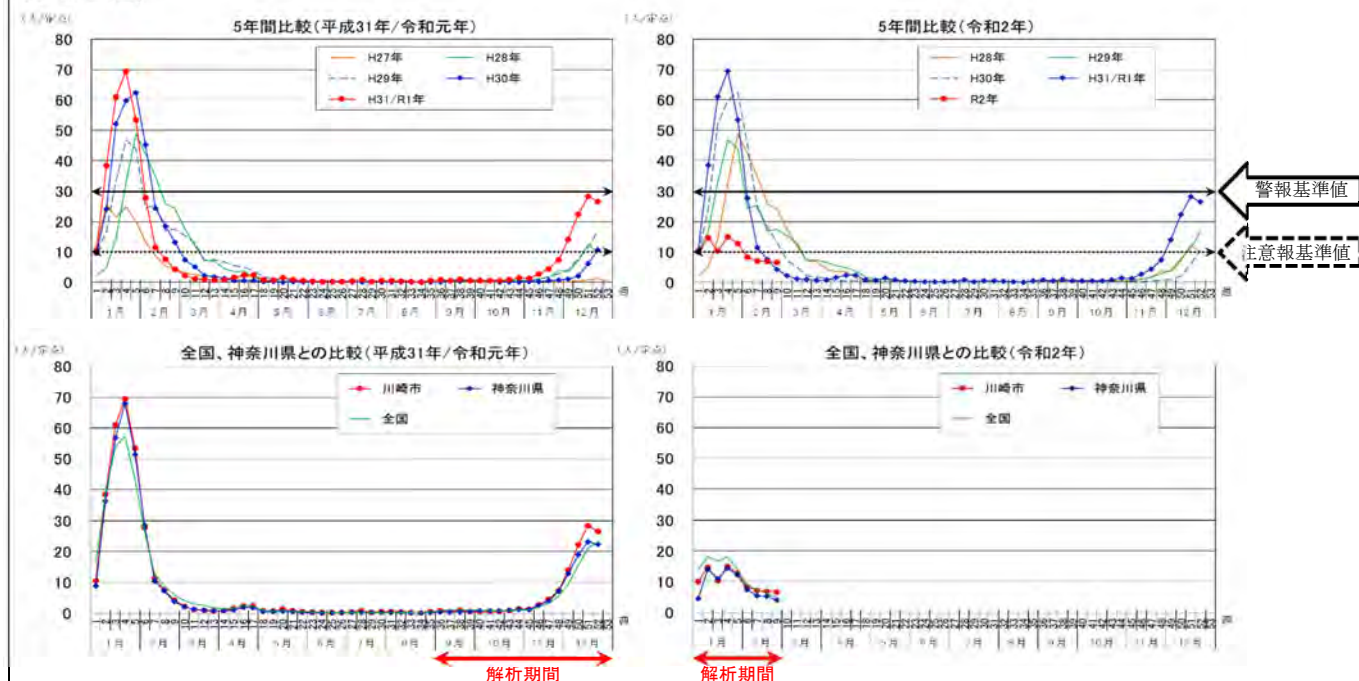
定点把握疾患の届出状況(令和元年9月～令和2年2月)

<インフルエンザ定点対象疾患>

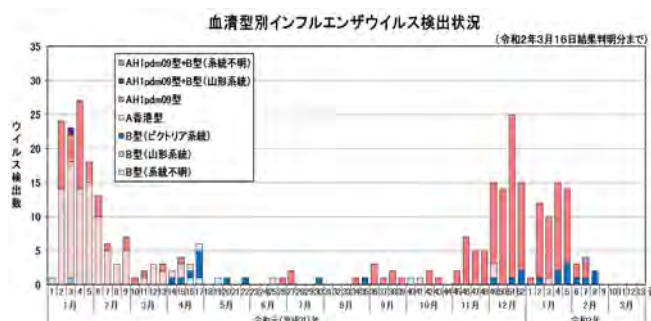
インフルエンザ(警報基準値:定点当たり30人、注意報基準値:定点当たり10人)

【川崎市】

今期(令和元年9月～令和2年2月)は定点当たり7.89人の報告があり、過去5年平均の報告数と比較すると0.73倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。2019/2020シーズンは、令和元年第44週に流行開始の目安である定点当たり1.00人を超え、昨シーズンと比べて6週間早く流行が始まりました。第49週に流行発生注意報基準値(定点当たり10.00人)を超え、第51週に流行のピーク(定点当たり28.36人)となり、第52週以降は徐々に減少しています。今シーズンは、流行発生警報基準値を超える週はありませんでした。



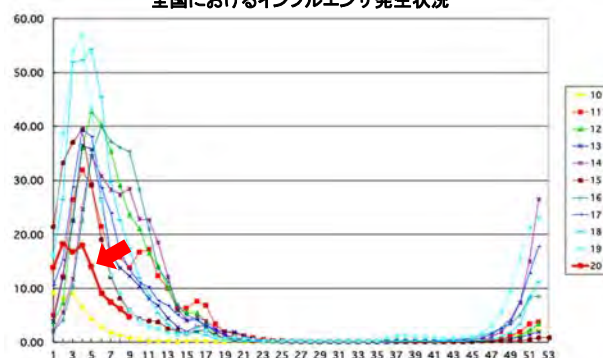
なお、2019/2020シーズンの病原体定点からの病原体検出状況は、AH1pdm09型が141件、B型(ビクトリア系統)が14件、A香港型が4件、B型(系統不明)が1件、AH1pdm09型及びB型(系統不明)が1件検出されました。



【全国及びその他】

全国的にも12月までは例年より高いレベルで推移し、1月以降は例年より低いレベルで推移しました。

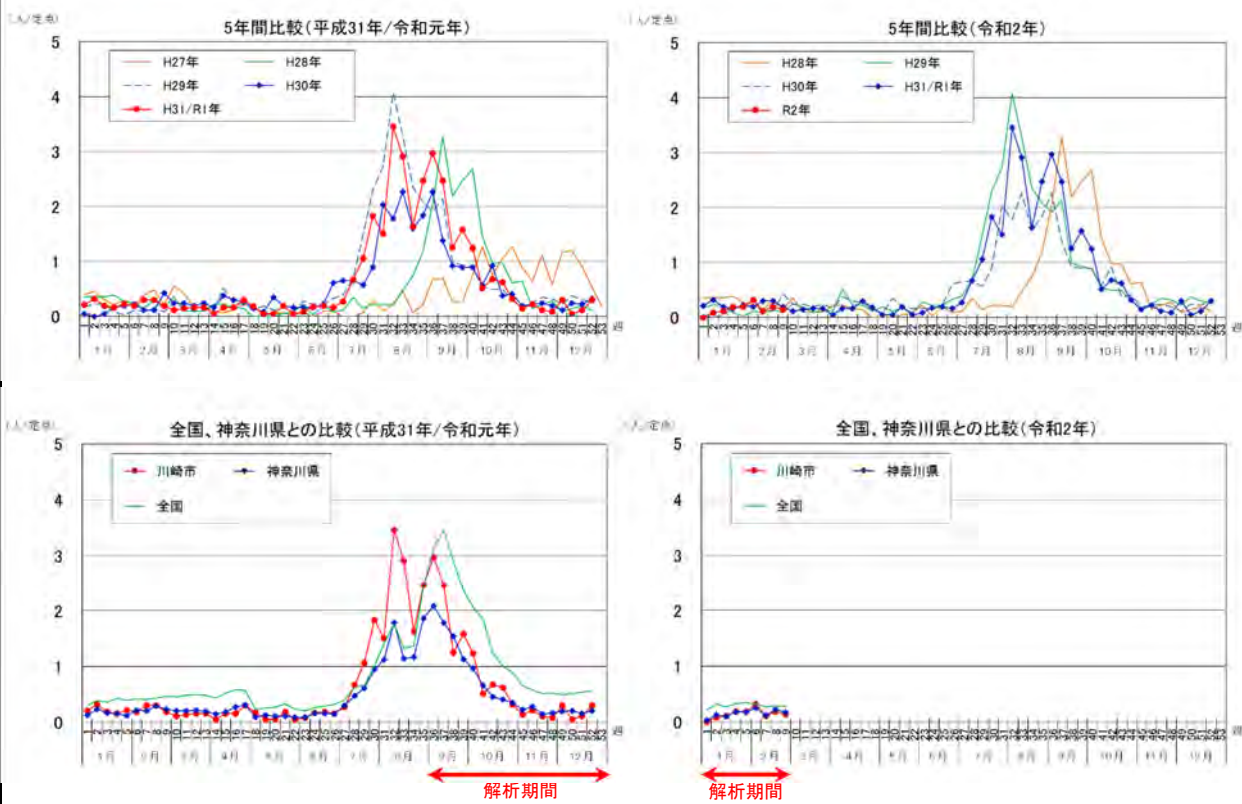
全国におけるインフルエンザ発生状況



<小児科定点対象疾患>

RSウイルス感染症

【川崎市】
今期は定点当たり 0.56 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.96 倍で、例年並みのレベルで推移しました。なお、平成 28 年以降冬季の流行はみられていません。

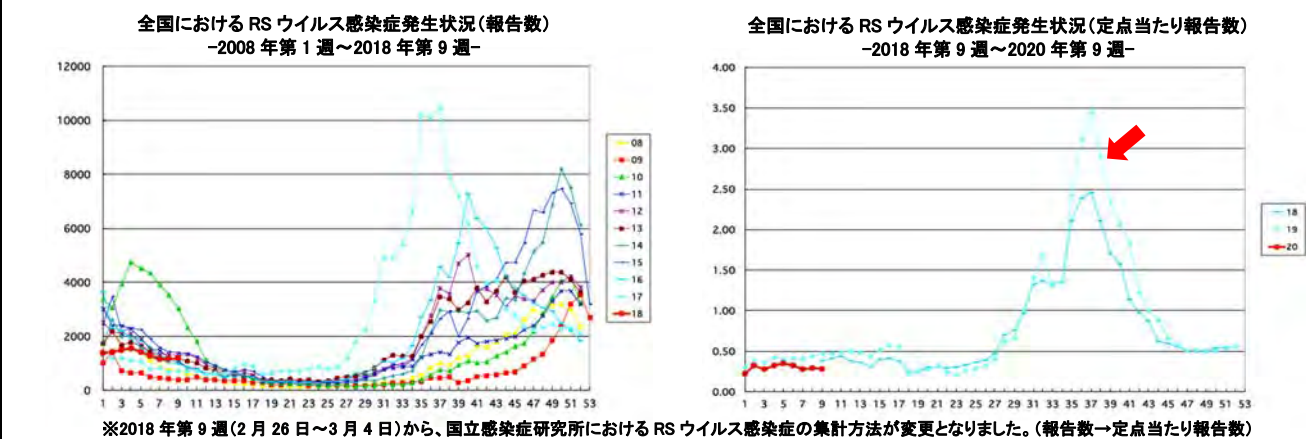


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
幸区	女	1	R1.9.2	鼻腔ぬぐい液	RS ウイルス A 型
川崎区	女	1	R1.9.4	鼻汁	RS ウイルス A 型
中原区	女	9 か月	R1.9.7	鼻腔ぬぐい液	RS ウイルス A 型
多摩区	男	1	R1.10.3	鼻腔ぬぐい液	RS ウイルス A 型
川崎区	男	1	R1.10.3	鼻汁	RS ウイルス A 型
幸区	男	5 か月	R1.10.4	鼻腔ぬぐい液	RS ウイルス A 型
川崎区	女	1	R2.1.28	鼻汁	RS ウイルス A 型
中原区	女	1	R2.2.18	鼻腔ぬぐい液	RS ウイルス A 型

【全国及びその他】

全国的には 9 月から 10 月にかけて例年より高いレベルで推移し、11 月以降は例年並みのレベルで推移しました。

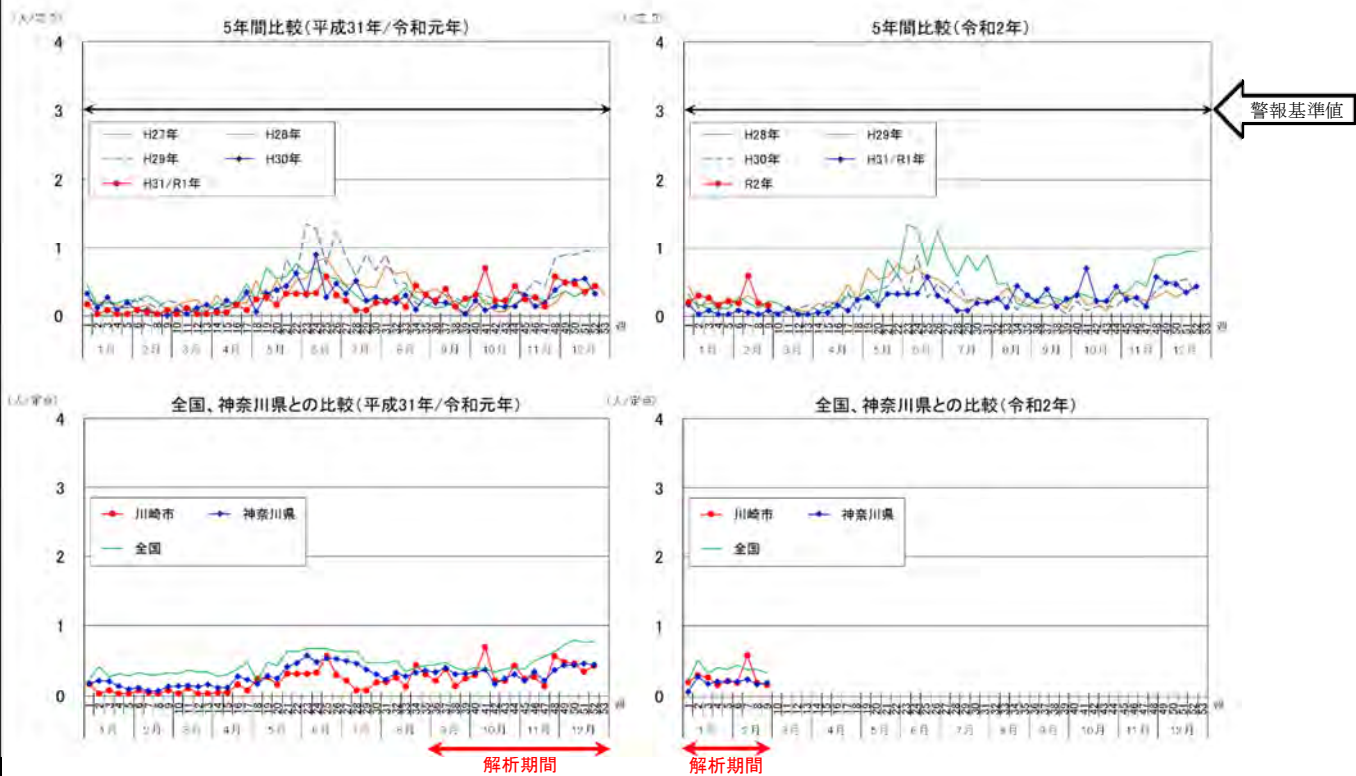


咽頭結膜熱(警報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.31 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.28 倍で、例年よりやや高いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値（3）以上となった週は、多摩区で第 41 週（3.80 人）でした。

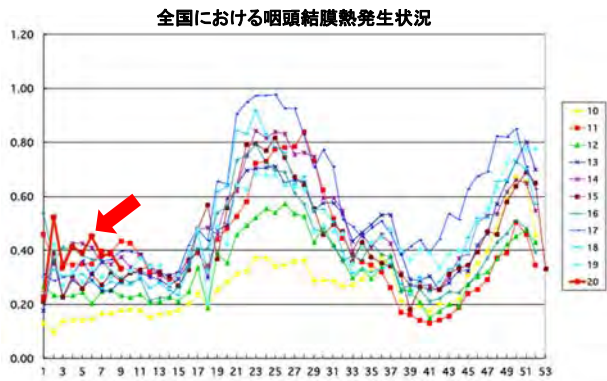


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
中原区	男	3	R1.9.28	咽頭ぬぐい液	アデノウイルス 4 型
中原区	男	6	R1.10.5	咽頭ぬぐい液	アデノウイルス 3 型
多摩区	男	2	R1.11.18	咽頭ぬぐい液	アデノウイルス 2 型
多摩区	男	3	R1.12.11	咽頭ぬぐい液	アデノウイルス 3 型
多摩区	男	4	R1.12.16	咽頭ぬぐい液	アデノウイルス 3 型

【全国及びその他】

全国的には例年より高いレベルで推移しました。

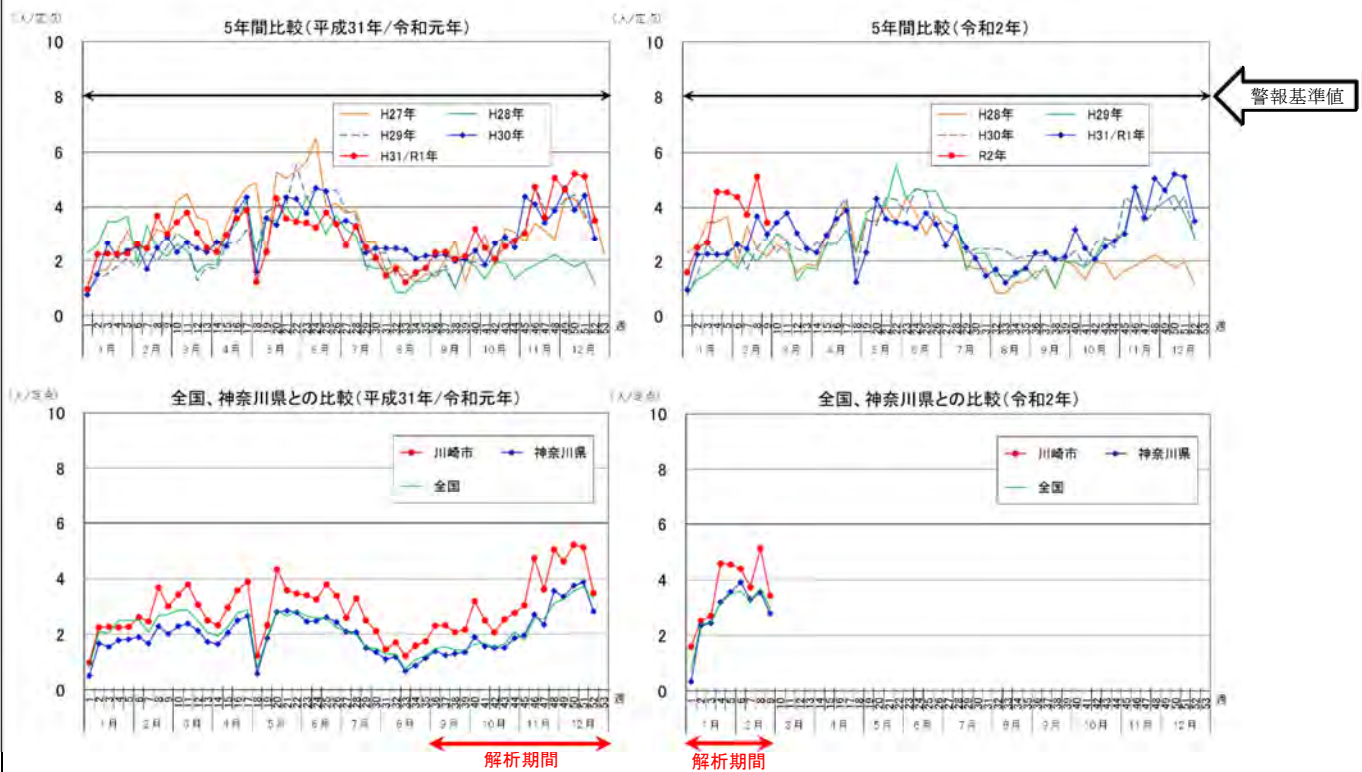


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

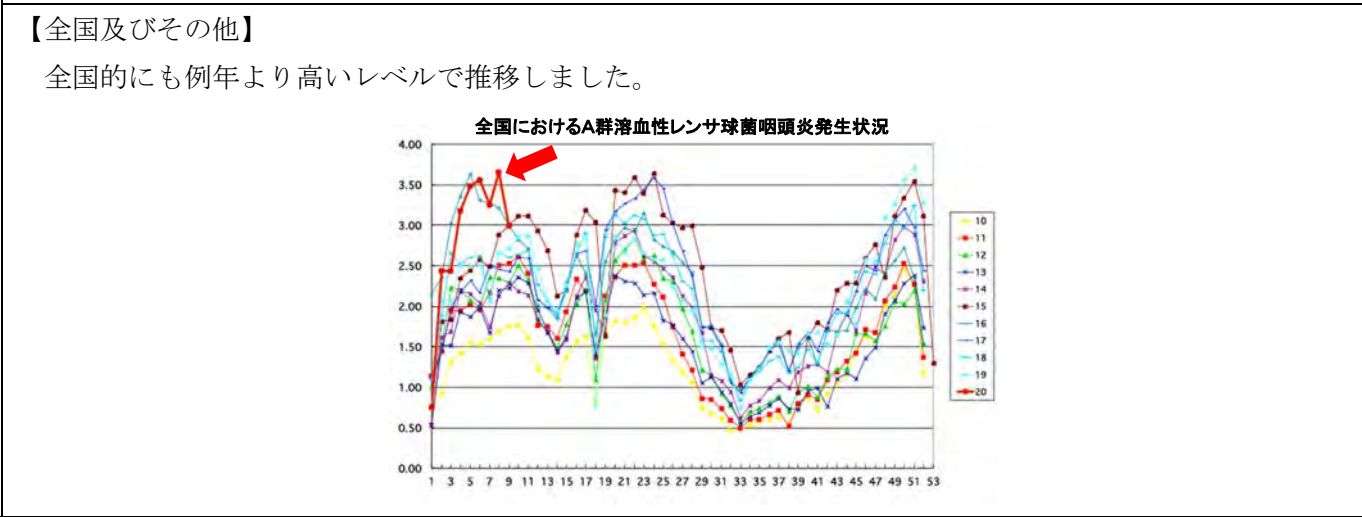
今期は定点当たり 3.49 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.43 倍で、例年より高いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (8) 以上となった週は、川崎区で第 5 週 (8.80 人)、幸区で第 8 週 (8.50 人)、高津区で第 48 週 (9.50 人)、第 50 週 (9.83 人)、宮前区で第 46 週 (9.00 人)、第 4 週 (8.50 人)、多摩区で第 40 週 (9.00 人)、第 49 週 (8.00 人)、第 7 週 (9.00 人) でした。



なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
高津区	女	3	R1.9.13	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 TB3264
幸区	男	8	R1.9.17	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T25
中原区	男	4	R1.10.1	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 TB3264
幸区	女	12	R1.10.8	咽頭ぬぐい液	不検出
中原区	女	6	R1.11.8	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T1
多摩区	男	4	R1.11.15	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T2
中原区	男	6	R2.1.28	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 TB3264
多摩区	男	6	R2.2.3	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 型別不能
中原区	男	4	R2.2.10	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 型別不能
中原区	男	3	R2.3.4	咽頭ぬぐい液	不検出

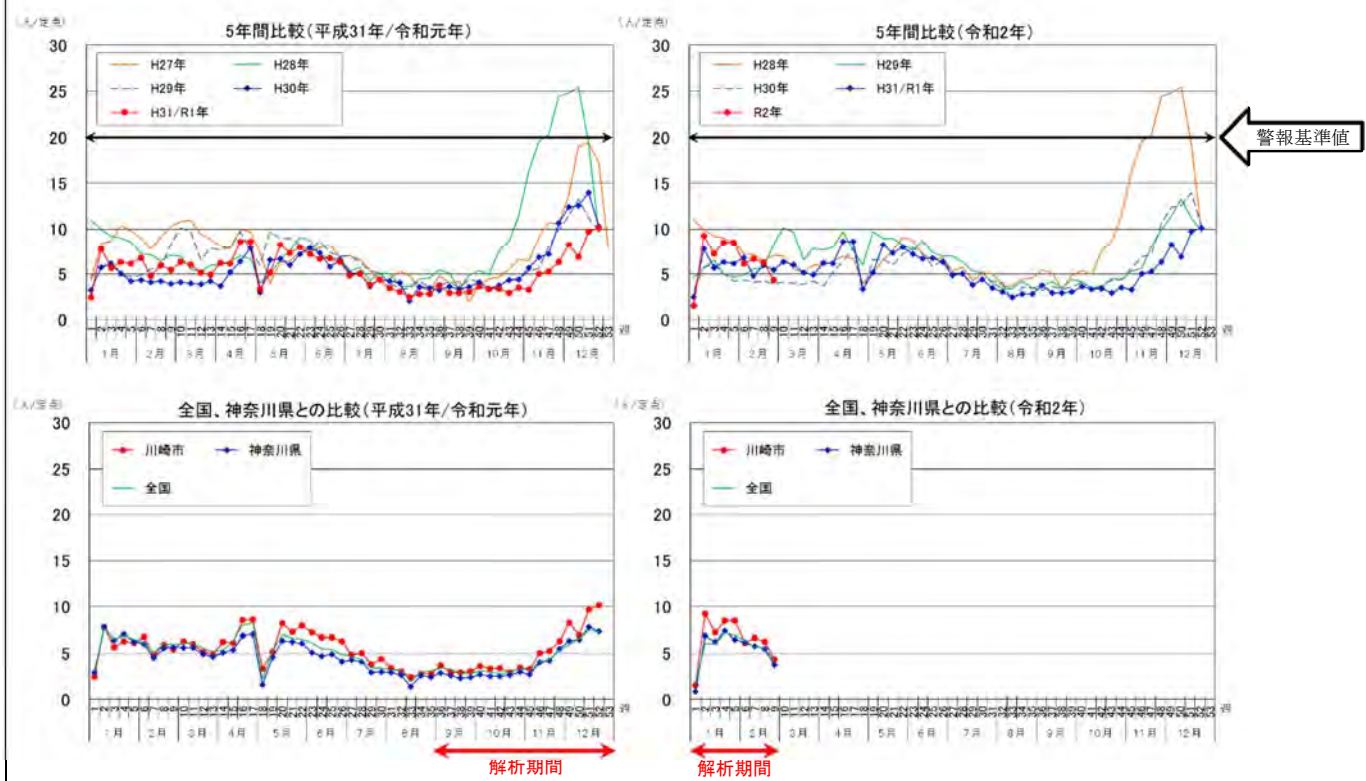


感染性胃腸炎（警報基準値：定点当たり 20 人）

【川崎市】

今期は定点当たり 5.58 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.71 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値（20）以上となった週はありませんでした。

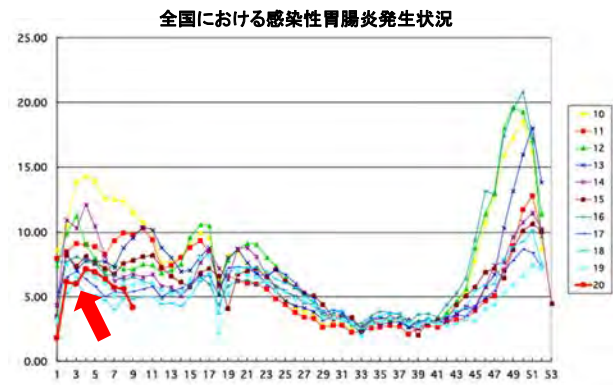


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果(ウイルス)	検査結果(細菌)
幸区	男	1	R1.12.3	ふん便	陰性	陰性
幸区	女	1	R1.12.9	ふん便	ノロウイルス GII.4	陰性

【全国及びその他】

全国的にも例年よりやや低いレベルで推移しました。

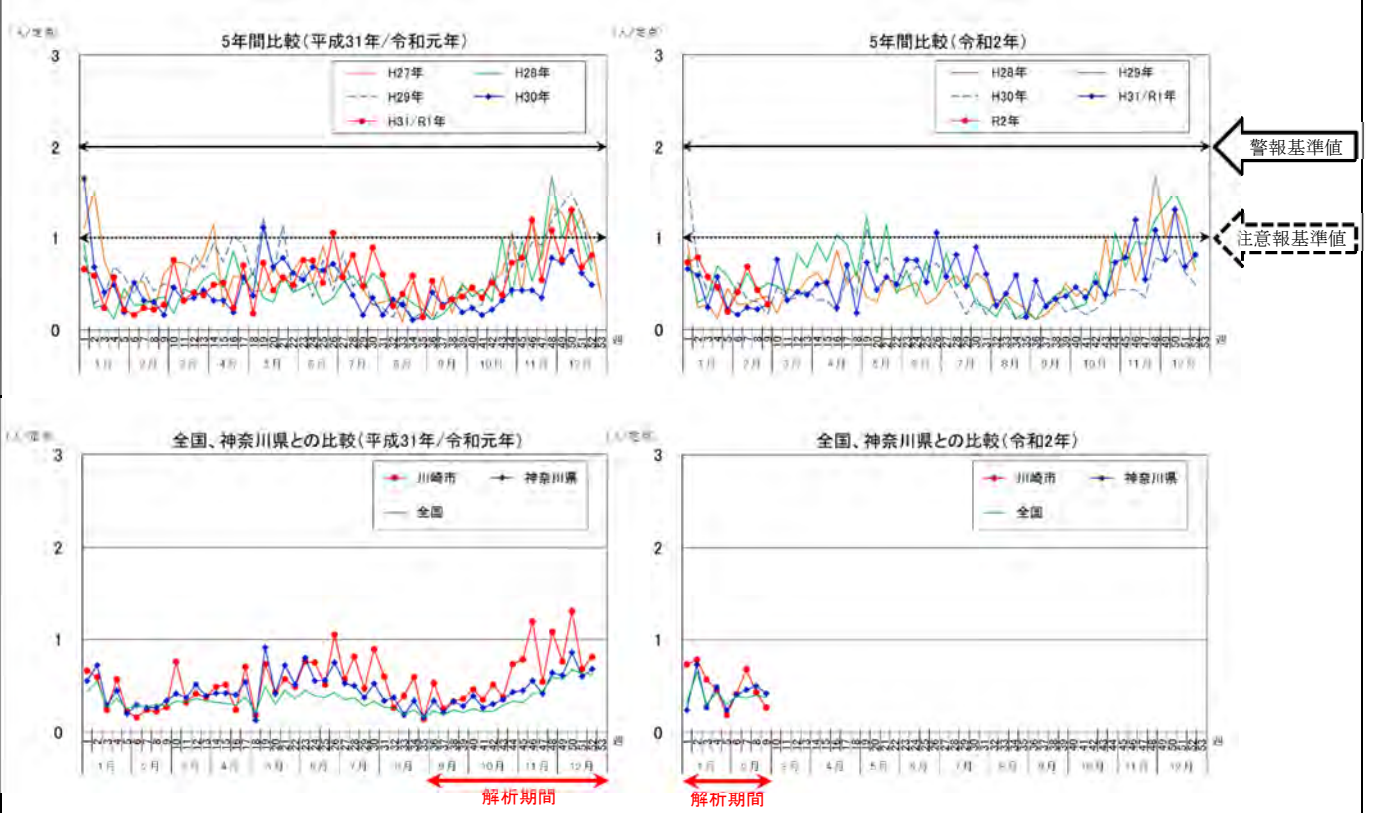


水痘(警報基準値:定点当たり2人、注意報基準値:定点当たり1人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.60 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.94 倍で、例年並みのレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (2) 以上となった週は、川崎区で第 45 週、第 46 週、第 48 週、高津区で第 50 週、宮前区で第 44 週、多摩区で第 46 週、第 50 週、第 7 週でした。

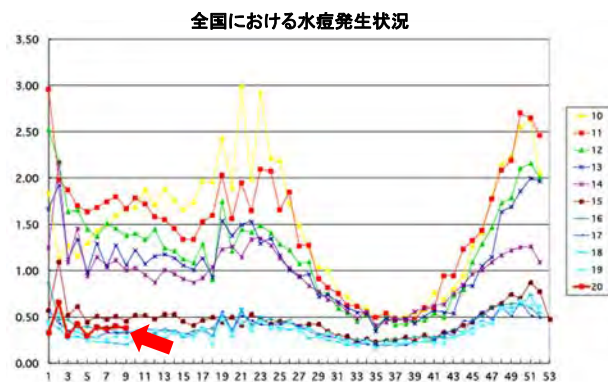


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
中原区	男	9	R1.12.10	咽頭ぬぐい液	水痘・帯状疱疹ウイルス
					ヒトヘルペスウイルス 7 型

【全国及びその他】

全国的にも例年並みのレベルで推移しました。

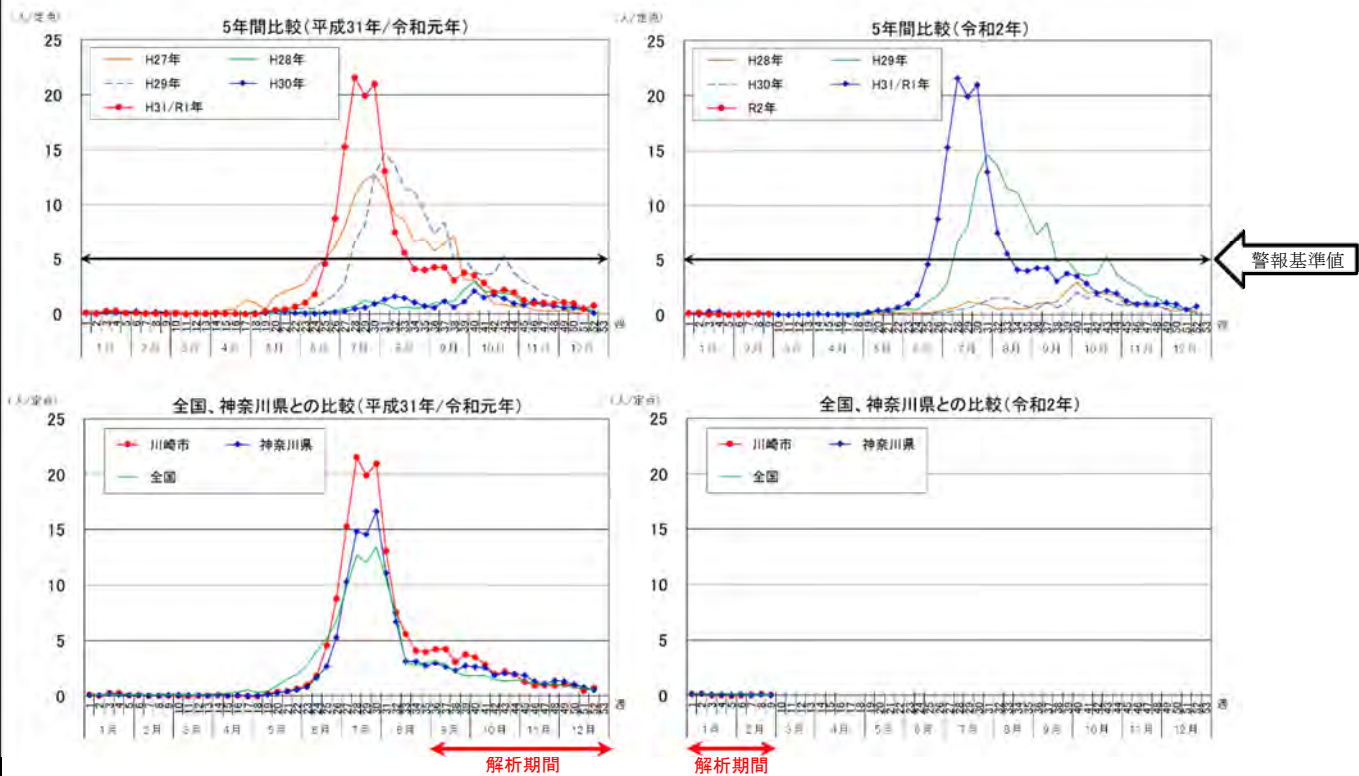


手足口病(警報基準値:定点当たり5人)

【川崎市】

今期は定点当たり 1.40 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.29 倍で、例年よりやや高いレベルで推移しました。特に 9 月下旬から 10 月にかけては例年より高いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (5) 以上となった週は、高津区で第 37 週 (5.50 人)、多摩区で第 36 週 (8.20 人)、第 37 週 (7.40 人)、第 39 週 (6.60 人)、麻生区で第 36 週 (8.50 人)、第 37 週 (6.50 人) でした。

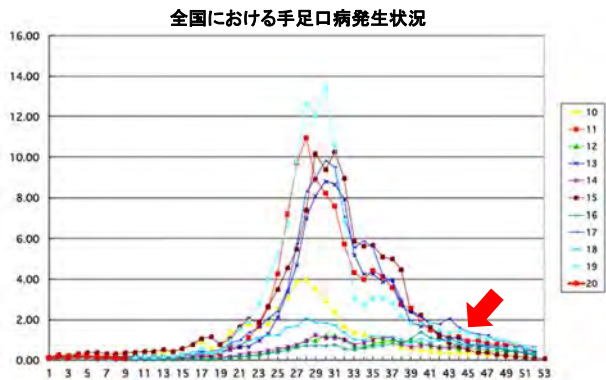


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
中原区	女	3	R1.9.2	咽頭ぬぐい液	コクサッキーウイルス A16 型
中原区	男	4	R1.9.2	咽頭ぬぐい液	コクサッキーウイルス A16 型
幸区	女	5	R1.9.3	咽頭ぬぐい液	水痘・帯状疱疹ウイルス EB ウイルス
多摩区	男	3	R1.9.24	咽頭ぬぐい液	コクサッキーウイルス A16 型
多摩区	男	5	R1.11.20	咽頭ぬぐい液	コクサッキーウイルス A16 型
多摩区	女	2	R1.11.25	咽頭ぬぐい液	コクサッキーウイルス A16 型
多摩区	男	2	R1.12.2	咽頭ぬぐい液	コクサッキーウイルス A16 型
高津区	男	2	R1.12.9	咽頭ぬぐい液	コクサッキーウイルス A16 型
中原区	男	2	R1.12.13	咽頭ぬぐい液	コクサッキーウイルス A16 型

【全国及びその他】

全国的にも例年よりやや高いレベルで推移しました。

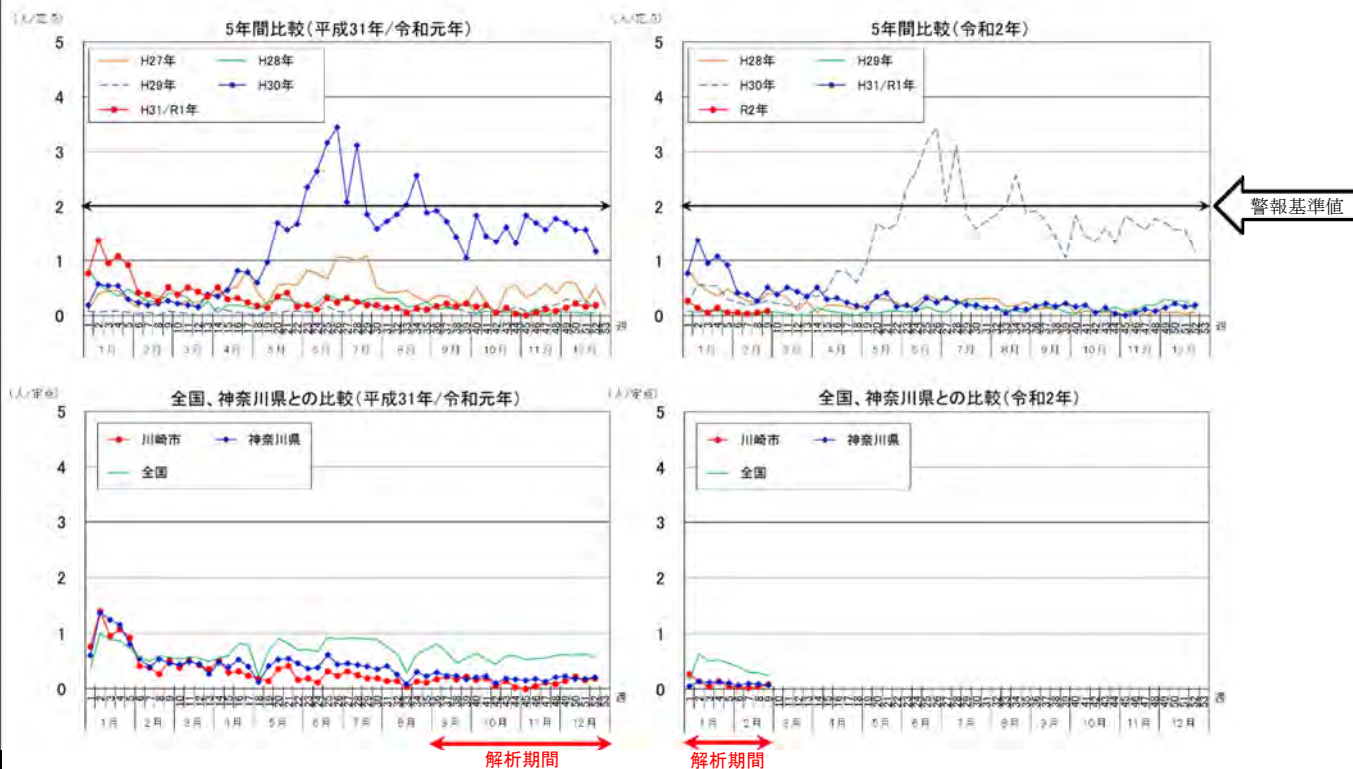


伝染性紅斑(警報基準値:定点当たり2人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.12 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.27 倍で、例年より低いレベルで推移しました。

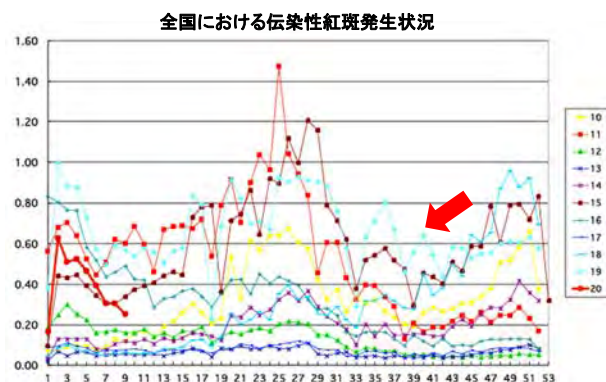
今期、流行発生警報基準値 (2) 以上となった週は、川崎区で第 1 週 (2.00 人) でした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的には 9 月から 10 月にかけて例年より高いレベルで推移しました。

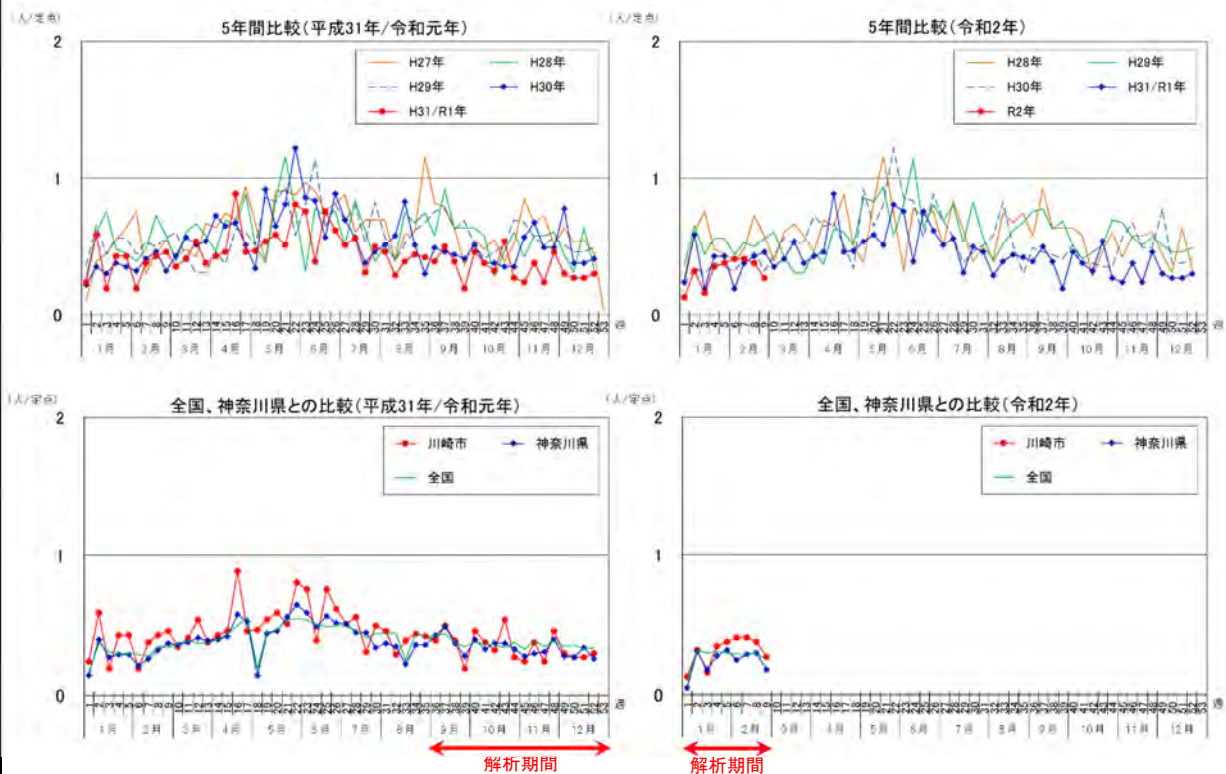


突発性発しん

【川崎市】

今期は定点当たり 0.34 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.66 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。

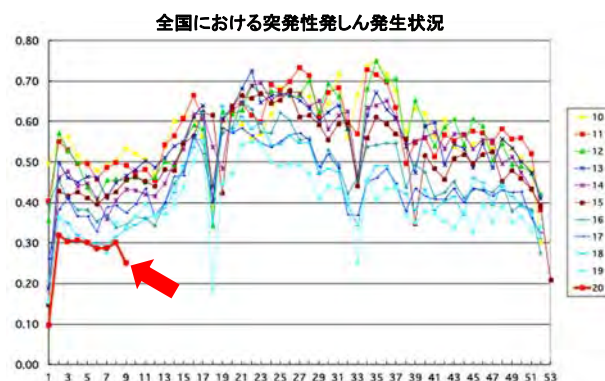
また、年齢階級別では 1 歳以下が 81.4%を占めていました。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的には例年より低いレベルで推移しました。

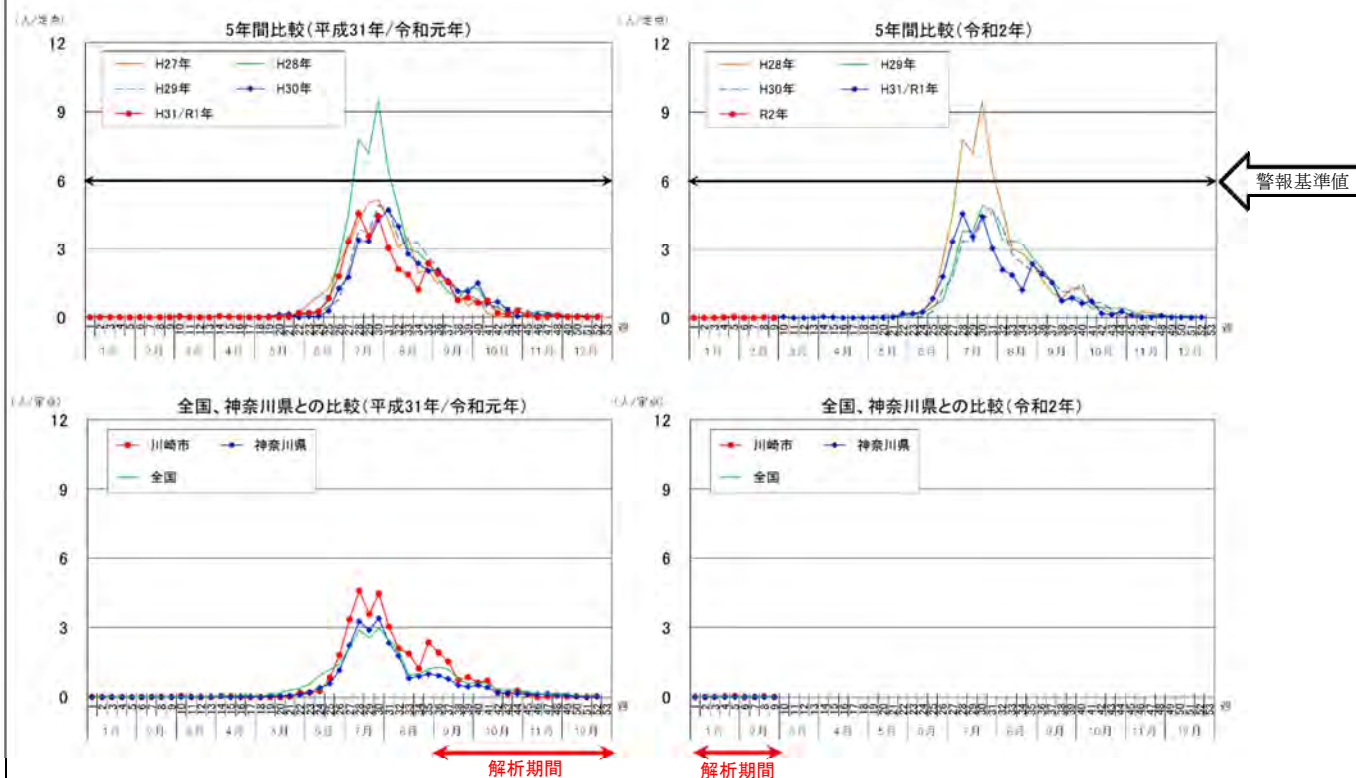


ヘルパンギーナ(警報基準値: 定点当たり 6 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.29 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.93 倍で、例年並みのレベルで推移しました。

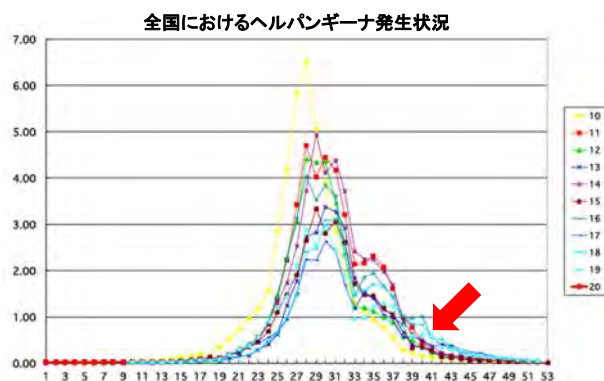
今期、流行発生警報基準値 (6) 以上となった週は、多摩区で第 36 週 (7.80 人) でした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。

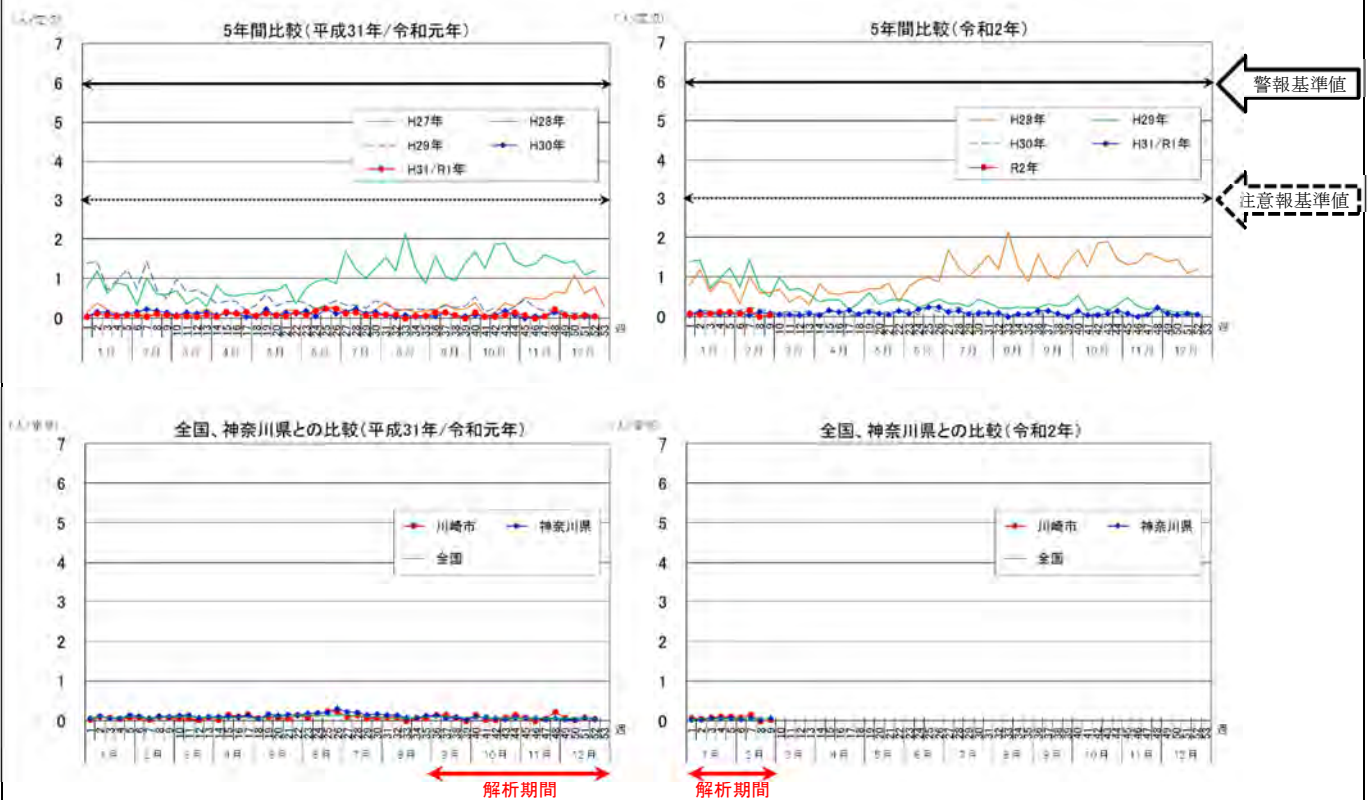


流行性耳下腺炎(警報基準値:定点当たり6人、注意報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.08 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.18 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

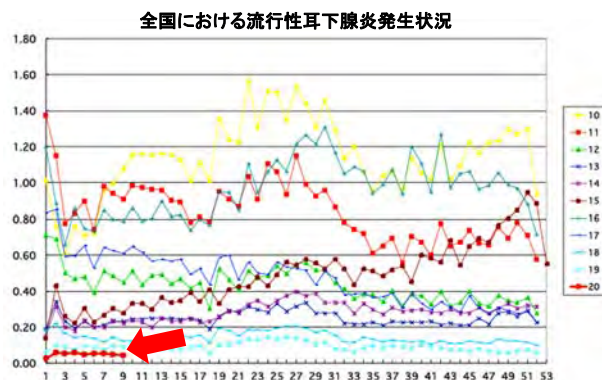
今期、流行発生注意報基準値（3）以上となった週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

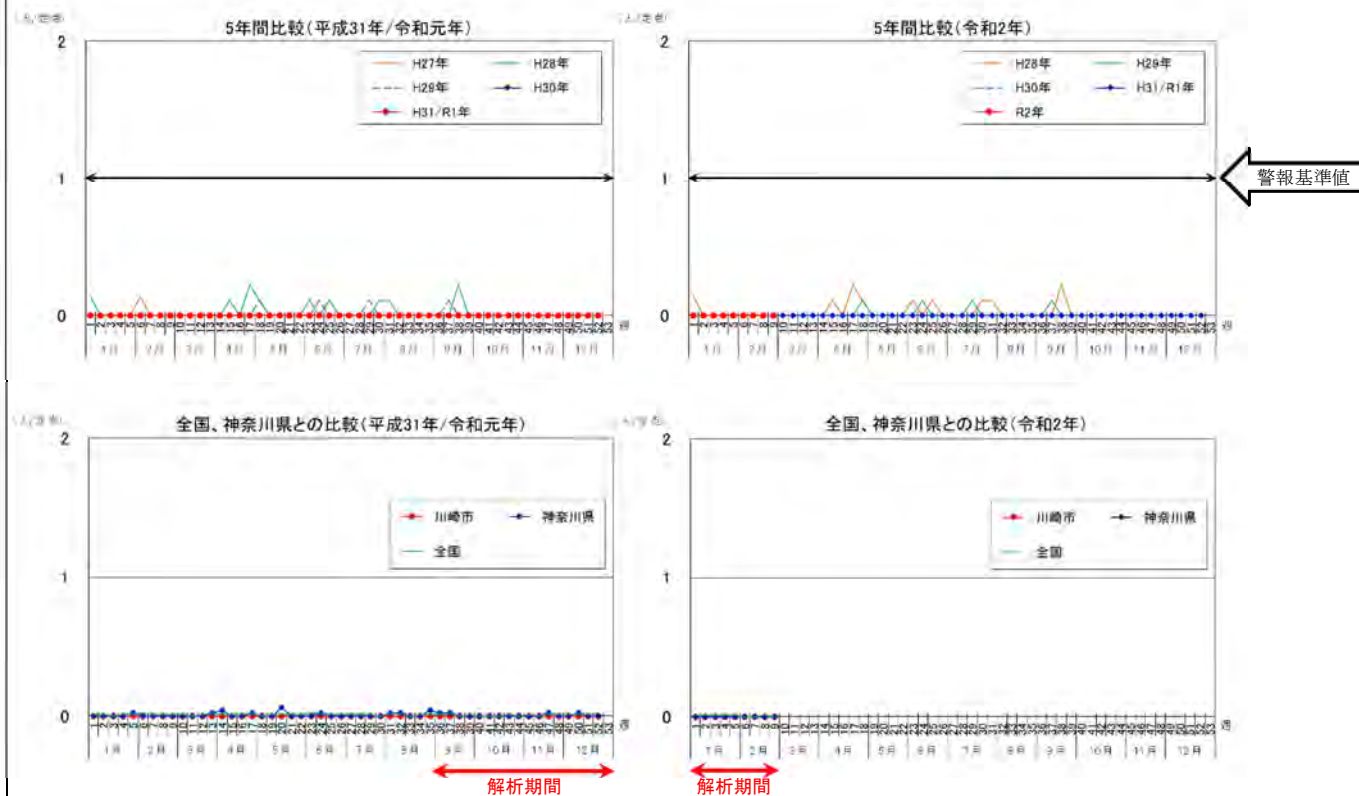


<眼科定点対象疾患>

急性出血性結膜炎(警報基準値:定点当たり1人)

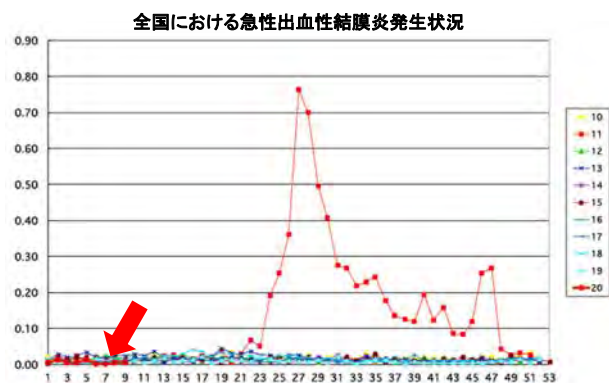
【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

全国的には例年並みのレベルで推移しました。

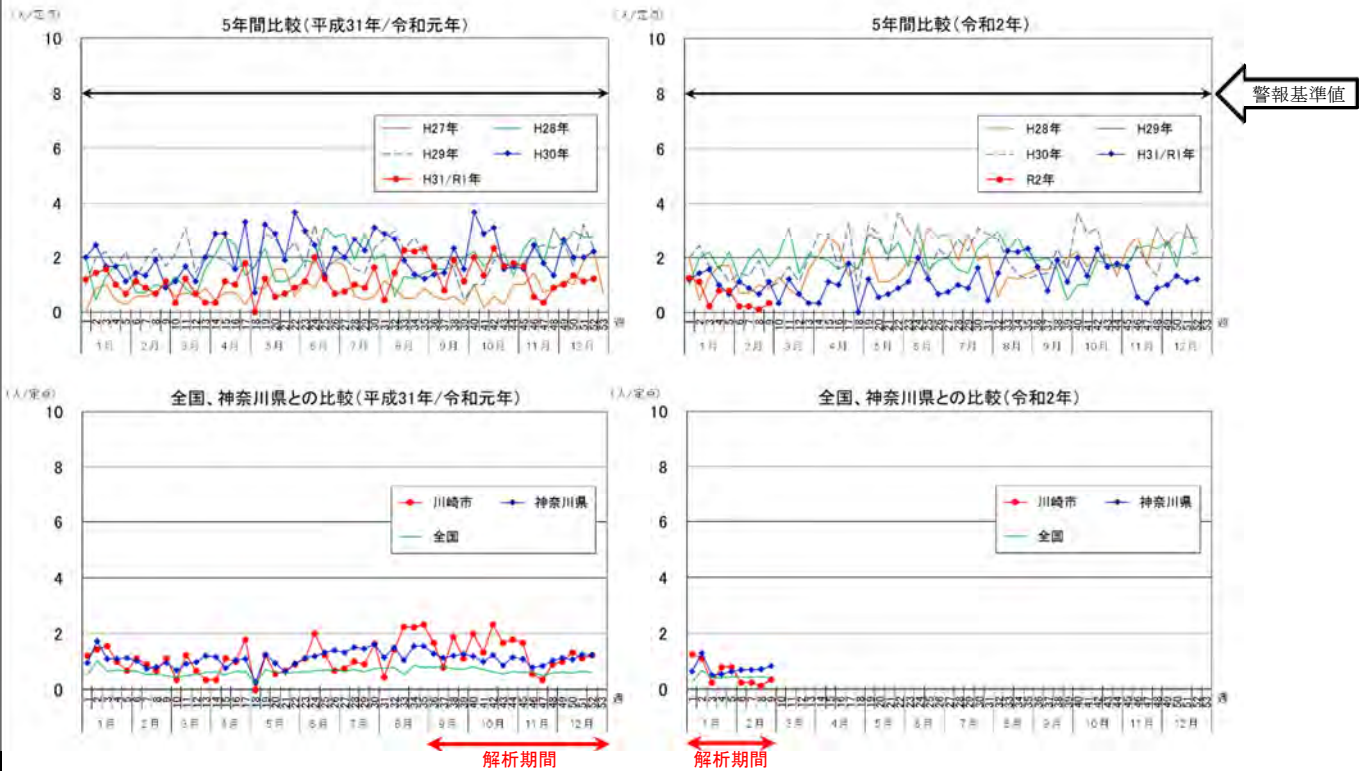


流行性角結膜炎(警報基準値: 定点当たり 8 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 1.06 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.74 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (8) 以上となった週は、多摩区で第 36 週 (8.00 人)、麻生区で第 38 週 (8.00 人)、第 40 週 (9.00 人)、第 42 週 (8.00 人) でした。

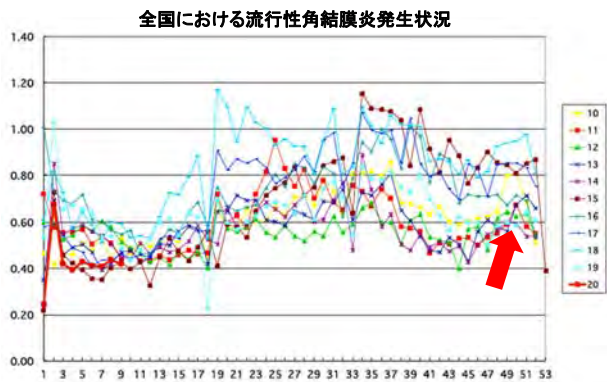


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	男	29	R1.9.24	眼脂	アデノウイルス 37 型
川崎区	女	21	R1.11.28	眼脂	アデノウイルス 53 型
川崎区	男	47	R2.1.5	眼脂	陰性

【全国及びその他】

全国的にも例年よりやや低いレベルで推移しました。

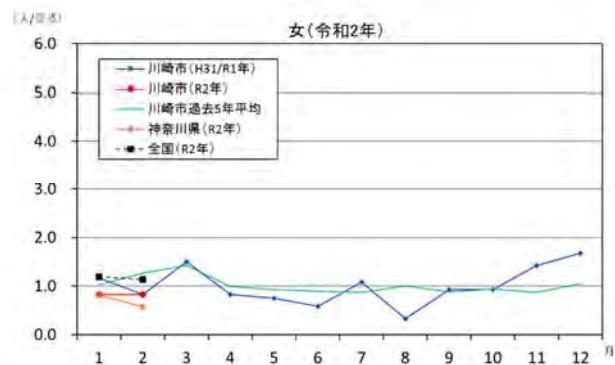
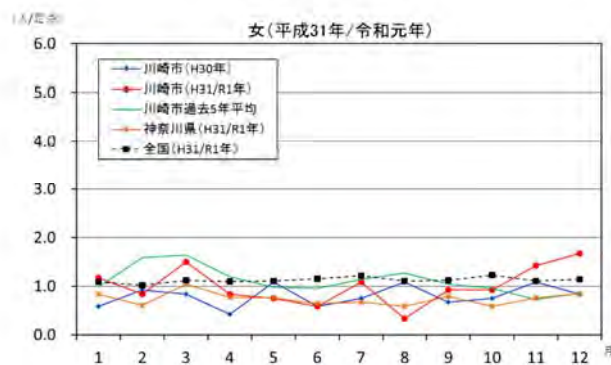
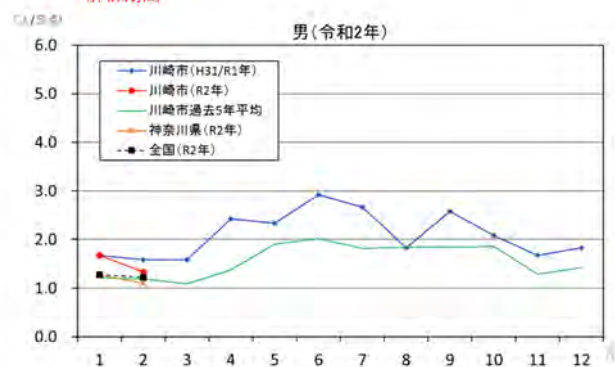
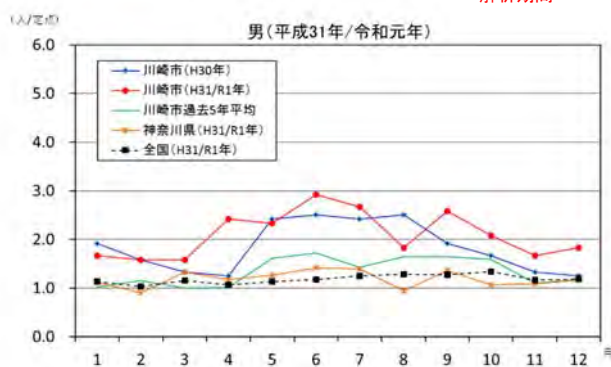
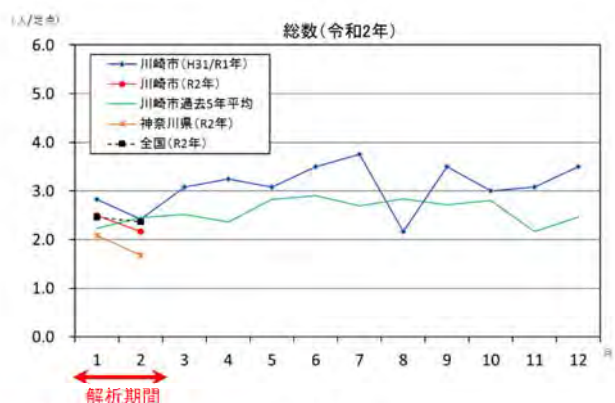
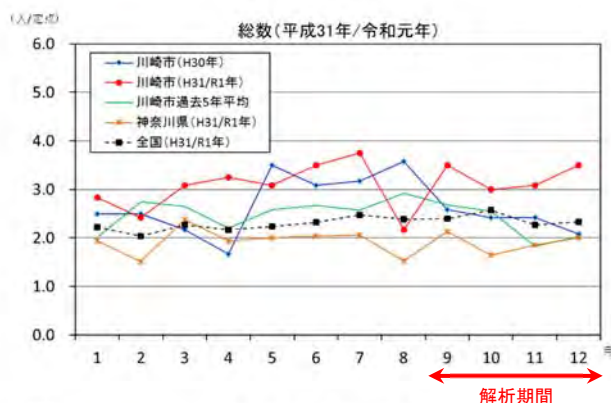


<性感染症定対象疾患>

性器クラミジア感染症

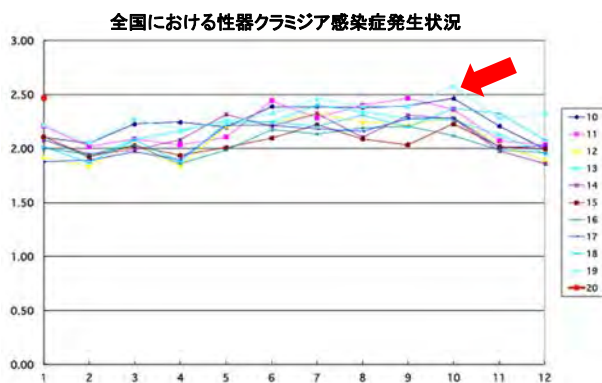
【川崎市】

今期は定点当たり 2.96 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.29 倍で、12 月までは例年より高いレベルで推移し、1 月以降は例年並みのレベルで推移しました。



【全国及びその他】

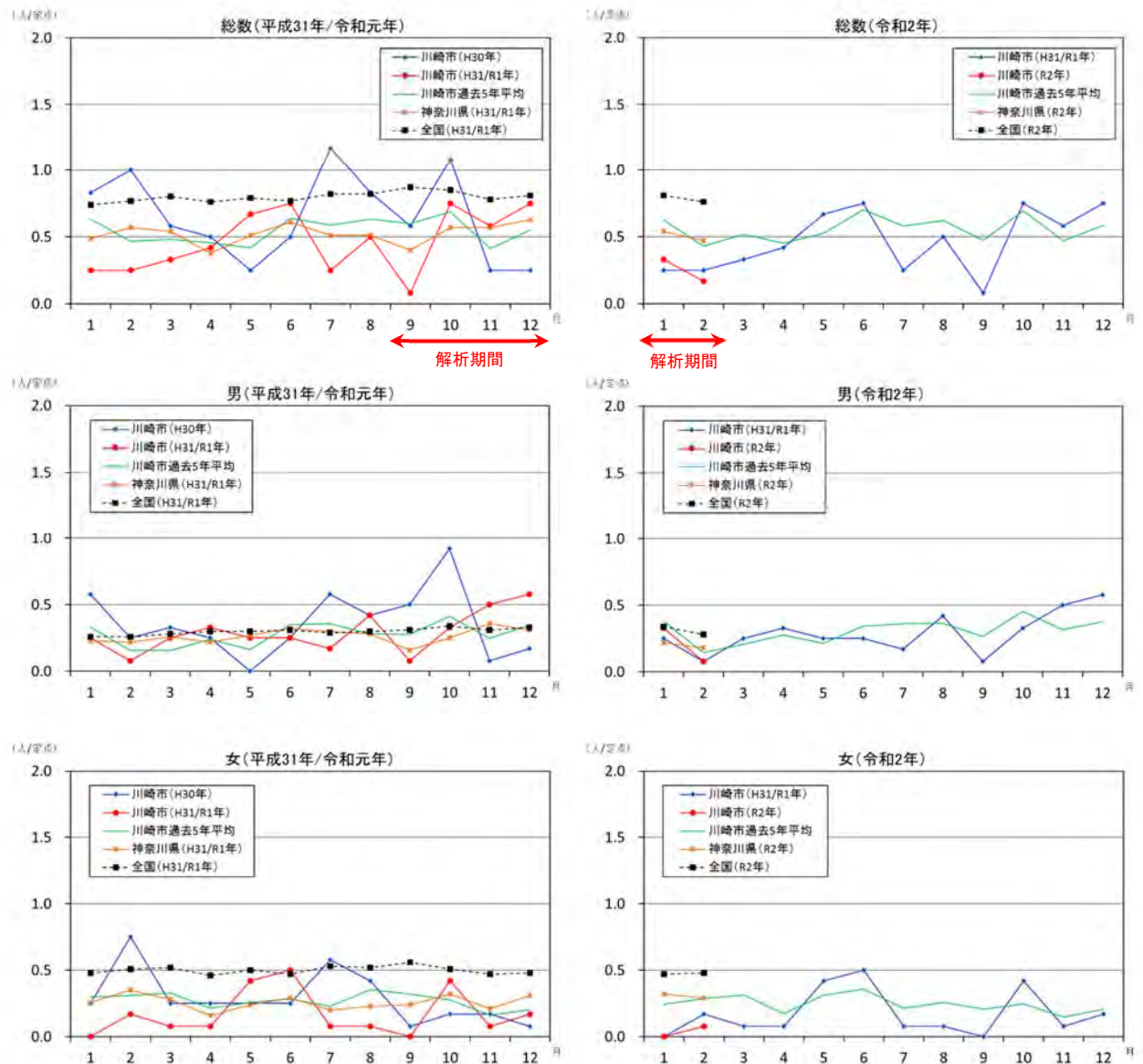
全国的にも例年より高いレベルで推移しました。



性器ヘルペスウイルス感染症

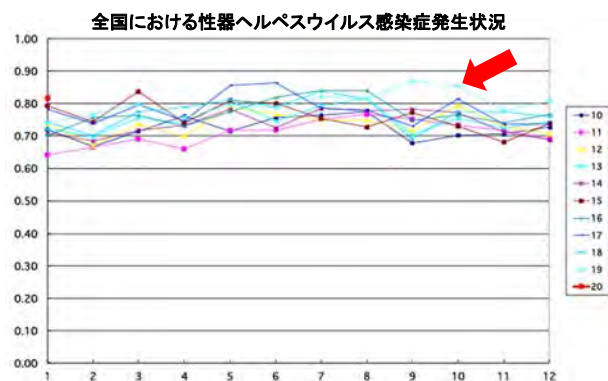
【川崎市】

今期は定点当たり 0.44 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.80 倍で、例年並みのレベルで推移しました。特に男性は 11 月、12 月、女性は 10 月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

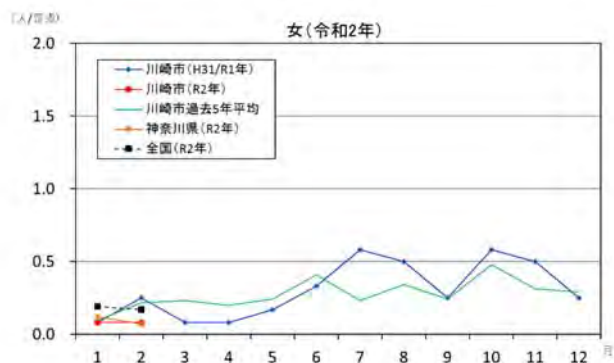
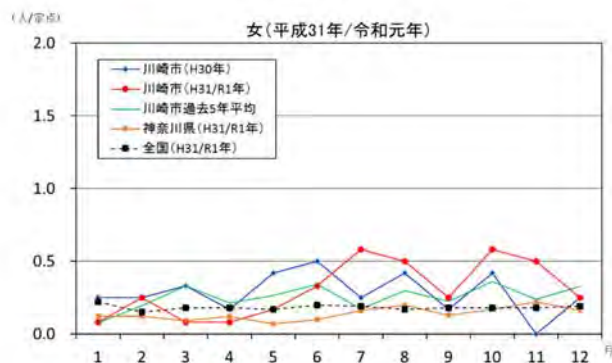
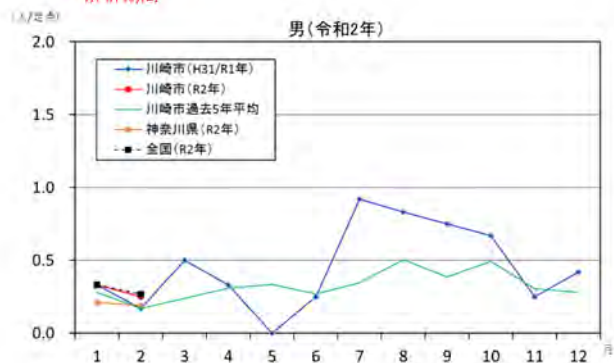
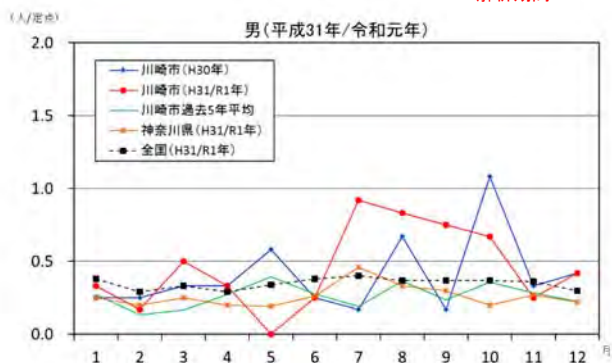
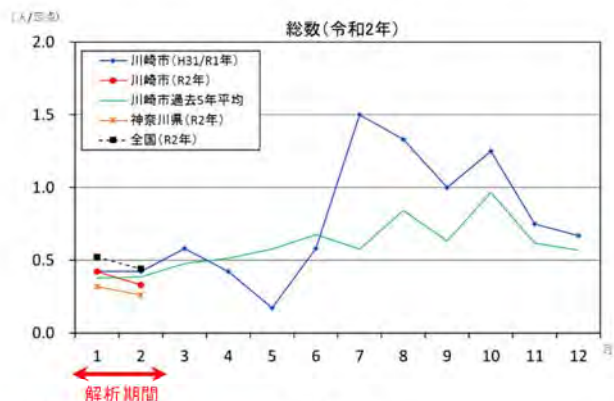
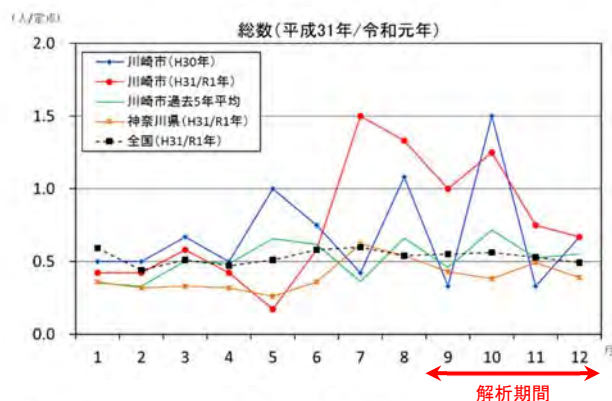
全国的には例年より高いレベルで推移しました。



尖圭コンジローマ

【川崎市】

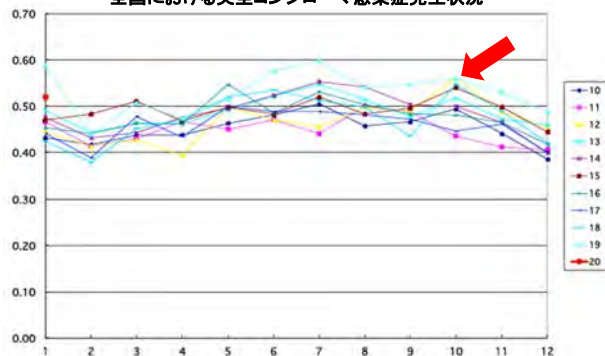
今期は定点当たり 0.74 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.48 倍で、12 月までは例年より高いレベルで推移し、1 月以降は例年並みのレベルで推移しました。



【全国及びその他】

全国的にも例年より高いレベルで推移しました。

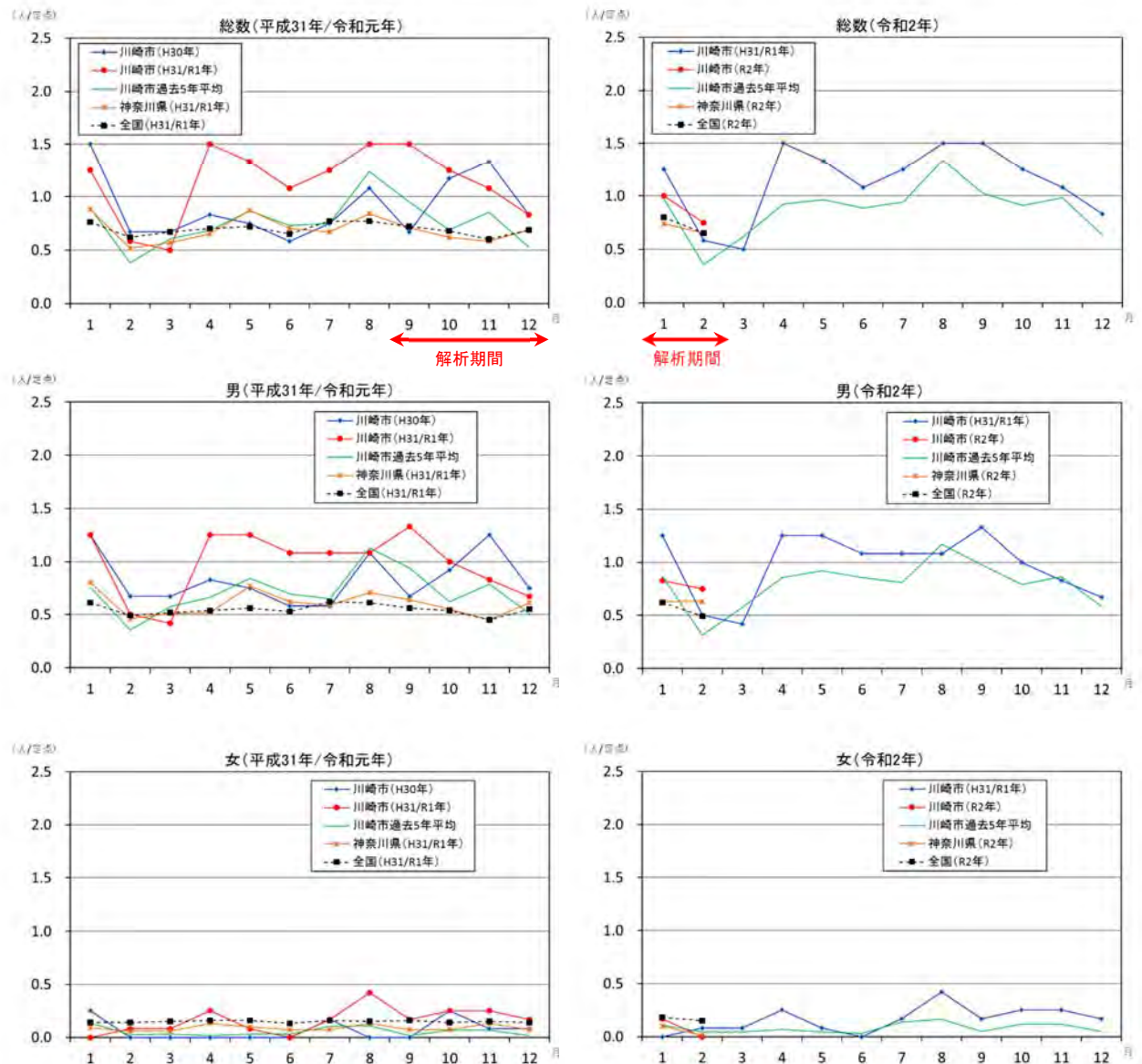
全国における尖圭コンジローマ感染症発生状況



淋菌感染症

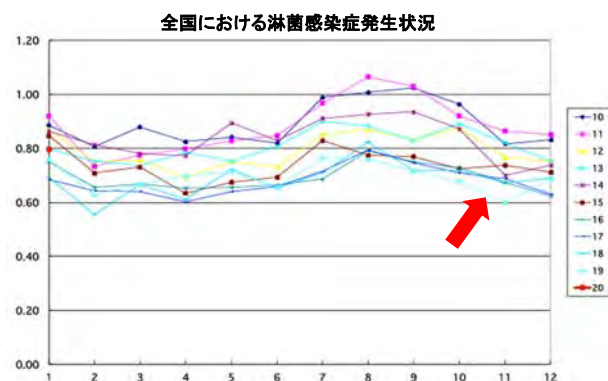
【川崎市】

今期は定点当たり 1.07 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.47 倍で、例年より高いレベルで推移しました。特に男性の報告数が多く、全体の 84.4%を占めていました。



【全国及びその他】

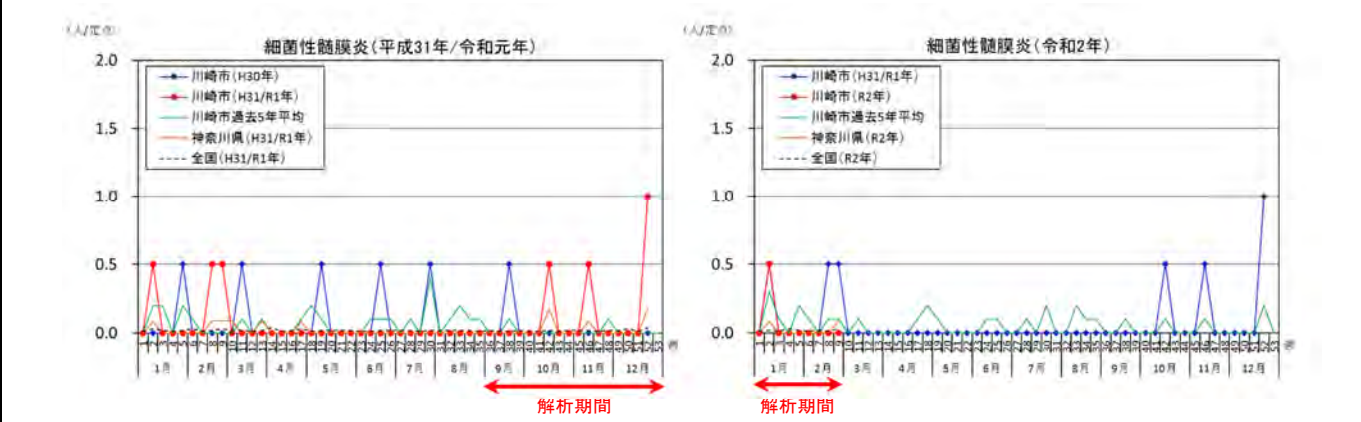
全国的には例年より低いレベルで推移しました。



<基幹定点対象疾患（週報）>

細菌性髄膜炎

【川崎市】
今期は定点当たり 0.10 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 2.27 倍で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。

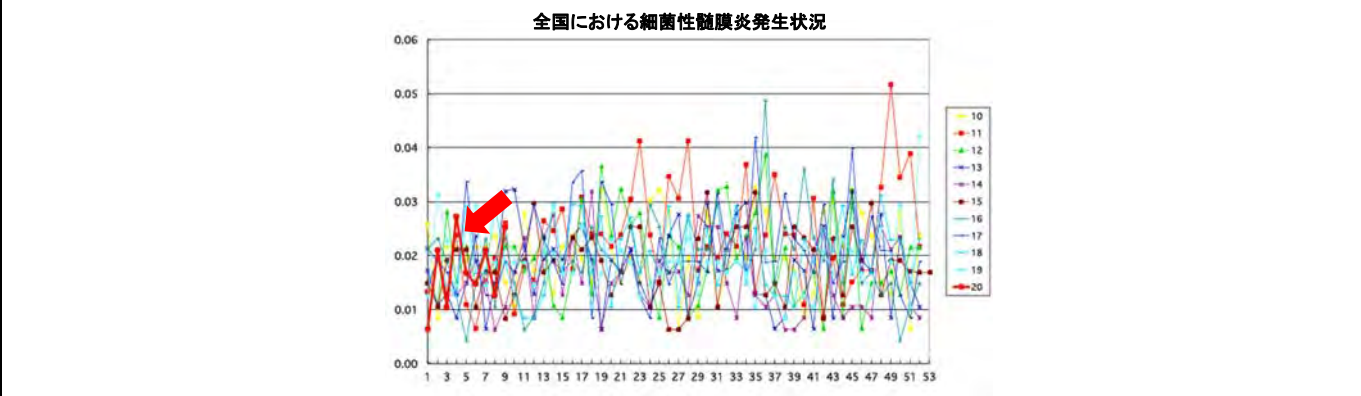


なお、検出された病原菌は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	届出週	検査材料	検査結果
宮前区	女	0 か月	第 42 週	髄液	<i>Streptococcus agalactiae</i>
川崎区	女	71	第 46 週	髄液	<i>Staphylococcus epidermidis</i>
川崎区	女	71	第 52 週	髄液	<i>Serratia marcescens</i>
宮前区	女	71	第 52 週	膿、血液、尿、創部、 ベンローズドレーン	<i>Escherichia coli</i>
宮前区	男	87	第 2 週	血液、髄液	<i>Streptococcus subsp.pasteurianus</i>

【全国及びその他】

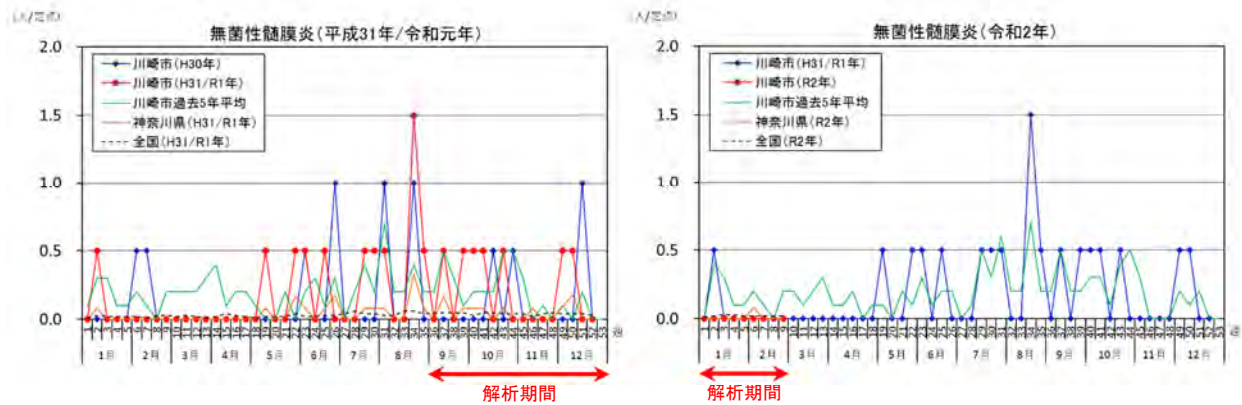
全国的には例年並みのレベルで推移しました。



無菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は定点当たり 0.13 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.71 倍で、例年並みのレベルで推移しました。

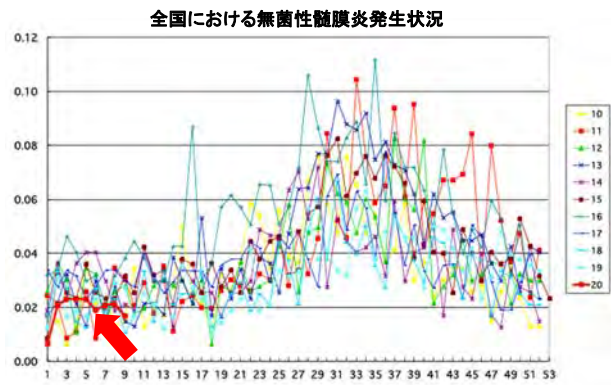


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	女	19	R1.9.8	髄液	陰性
川崎区	女	1	R1.9.30	髄液	陰性
宮前区	女	0 か月	R1.10.8	髄液	エコーウイルス 11 型
				咽頭ぬぐい液	
				ふん便	
川崎区	女	23	R1.10.21	髄液	陰性
川崎区	男	58	R1.12.2	髄液	単純ヘルペスウイルス 1 型
川崎区	男	0 か月	R1.12.8	髄液	コクサッキーウイルス A16 型
					コクサッキーウイルス B3 型

【全国及びその他】

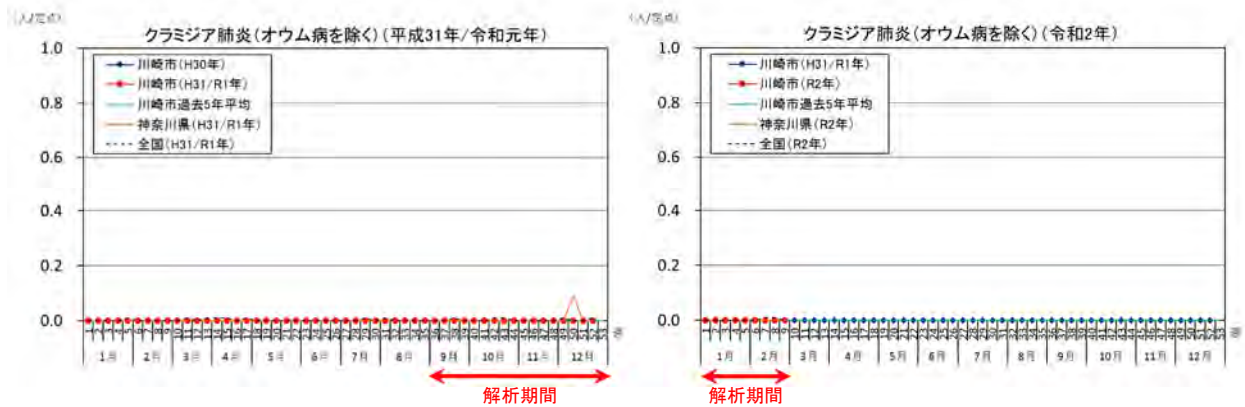
全国的にも例年並みのレベルで推移しました。



クラミジア肺炎(オウム病を除く)

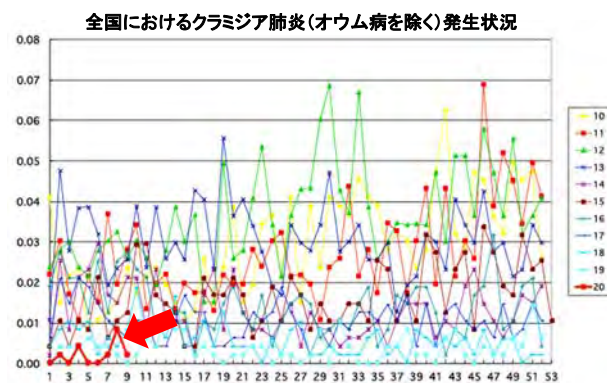
【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

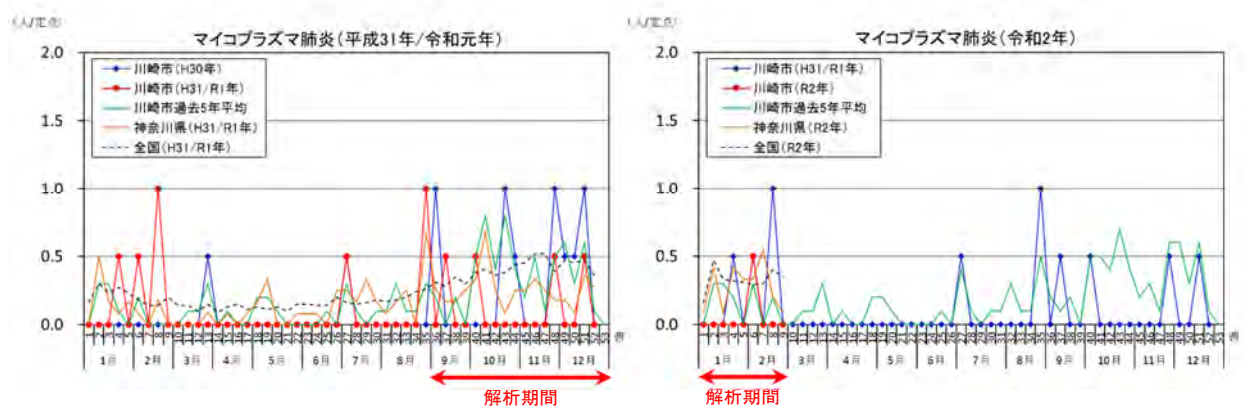
全国的には例年より低いレベルで推移しました。



マイコプラズマ肺炎

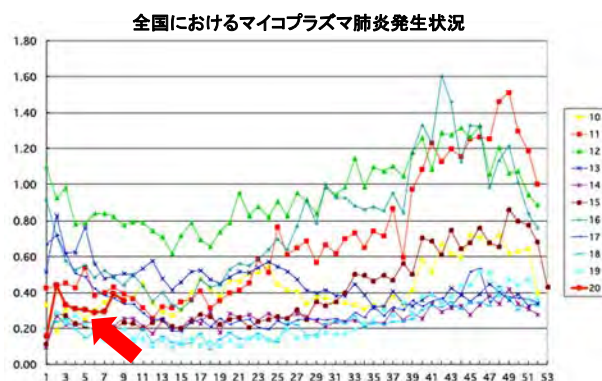
【川崎市】

今期は定点当たり 0.10 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.35 倍で、例年より低いレベルで推移しました。第 37 週、第 40 週、第 48 週、第 51 週及び第 6 週に各 1 件の報告がありました。



【全国及びその他】

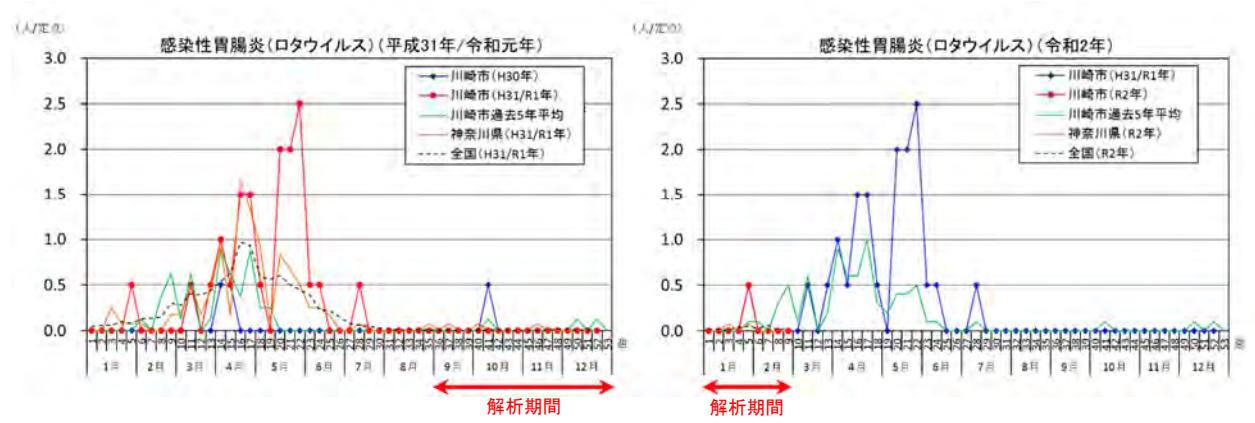
全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.02 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.38 倍で、例年より低いレベルで推移しました。第 5 週に 1 件の報告がありました。



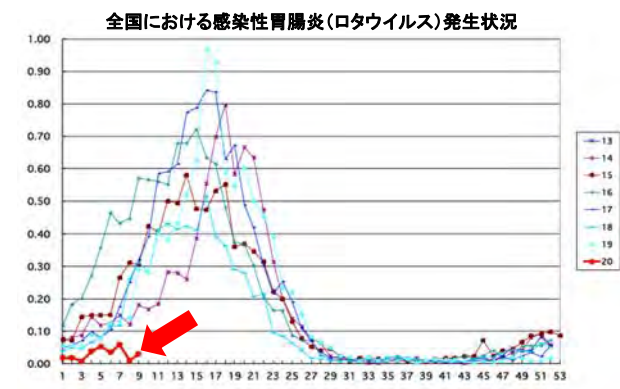
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	女	2	R2.1.27	ふん便	ロタウイルス G3P[8]

- ※単価ワクチン：G1P[8]を成分とした弱毒生ワクチン
- ※5価ワクチン：G1、G2、G3、G4、P1A[8] を成分とした弱毒生ワクチン
- 単価ワクチン及び5価ワクチンについては、いずれも G1P[8]、G2P[4]、G3P[8]、G4P[8]、G9P[8]に効果があると添付文書に記載されている。

【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

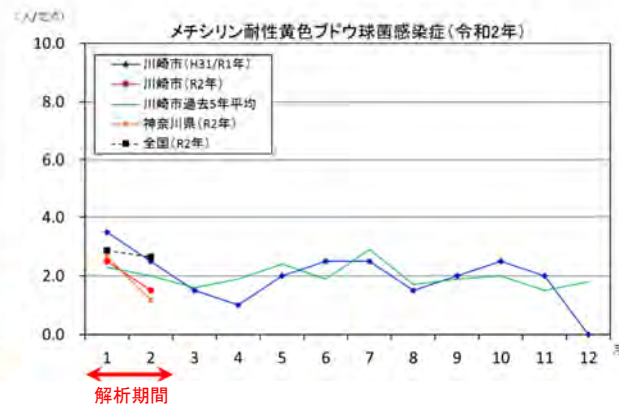
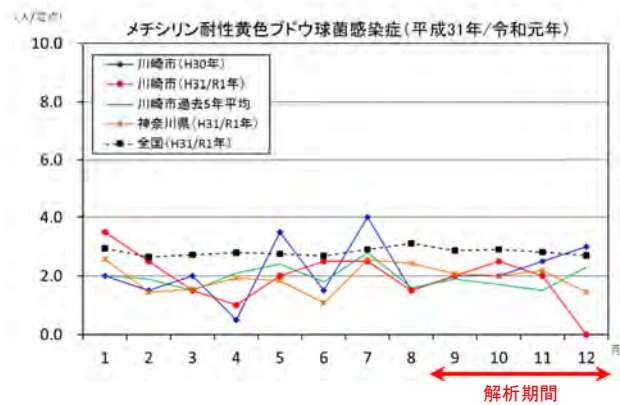


<基幹定点対象疾患（月報）>

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

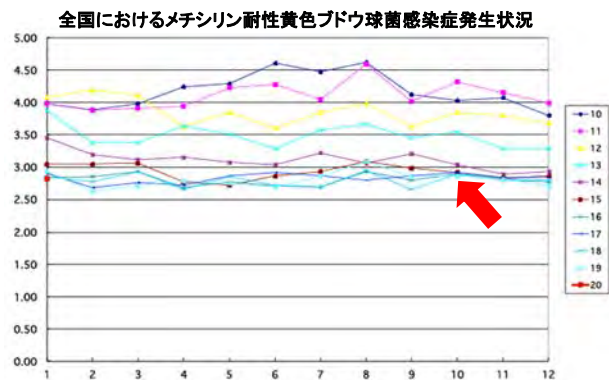
【川崎市】

今期は定点当たり 1.75 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.90 倍で、例年並みのレベルで推移しました。



【全国及びその他】

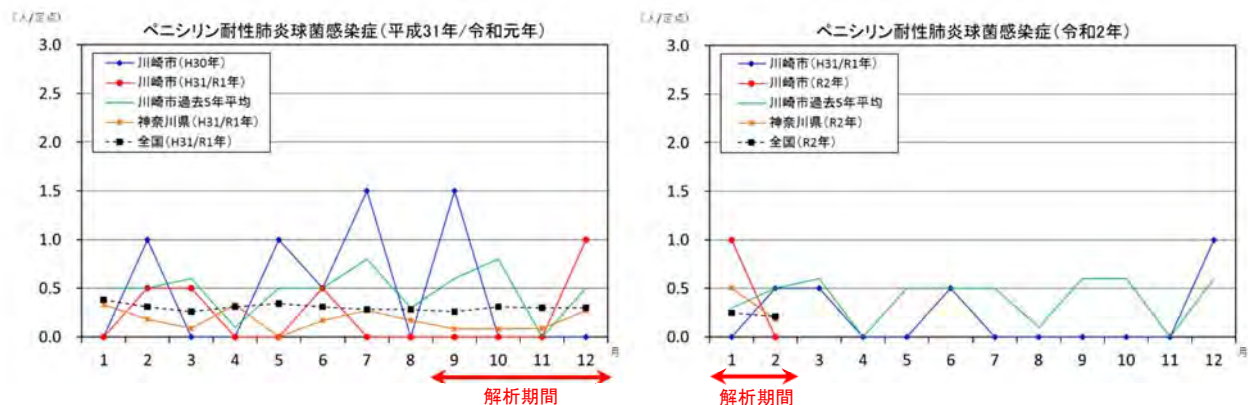
全国的には例年より低いレベルで推移しました。



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

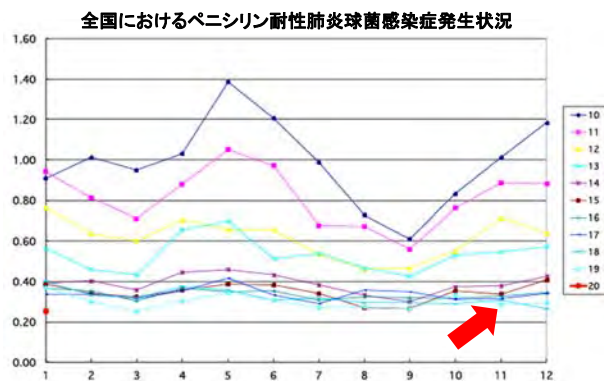
【川崎市】

今期は定点当たり 0.33 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.73 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。12 月及び 1 月に各 2 件の報告がありました。



【全国及びその他】

全国的には例年より低いレベルで推移しました。



【川崎市】

今期は定点当たり 0.08 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.21 倍で、例年よりやや高いレベルで推移しました。1 月に 1 件の報告がありました。

薬剤耐性緑膿菌感染症(平成31年/令和元年)

薬剤耐性緑膿菌感染症(令和2年)

全国における薬剤耐性緑膿菌感染症発生状況

Year	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1	0.052	0.100	0.075	0.052	0.038	0.038	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025
2	0.052	0.058	0.082	0.052	0.038	0.038	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025
3	0.052	0.058	0.112	0.052	0.038	0.038	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025
4	0.058	0.062	0.062	0.058	0.032	0.042	0.022	0.012	0.022	0.022	0.022
5	0.102	0.078	0.078	0.078	0.042	0.042	0.018	0.018	0.018	0.018	0.018
6	0.075	0.075	0.058	0.075	0.042	0.042	0.028	0.028	0.028	0.028	0.028
7	0.088	0.112	0.062	0.088	0.058	0.058	0.032	0.032	0.032	0.032	0.032
8	0.128	0.098	0.078	0.078	0.052	0.052	0.038	0.038	0.038	0.038	0.038
9	0.120	0.120	0.048	0.120	0.052	0.052	0.032	0.032	0.032	0.032	0.032
10	0.088	0.112	0.088	0.088	0.038	0.038	0.028	0.028	0.028	0.028	0.028
11	0.112	0.072	0.082	0.072	0.042	0.042	0.028	0.028	0.028	0.028	0.028
12	0.098	0.078	0.042	0.042	0.032	0.032	0.028	0.028	0.028	0.028	0.028